

第3章

計画が目指す姿と 施策の方向

1 将来像

「将来像」は、食育推進計画を通じて実現を目指す、八王子市の姿を指します。

本計画では、国・都の動向、食育推進の課題等を踏まえつつ、第2期八王子市食育推進計画で掲げた将来像を引き継ぐこととします。

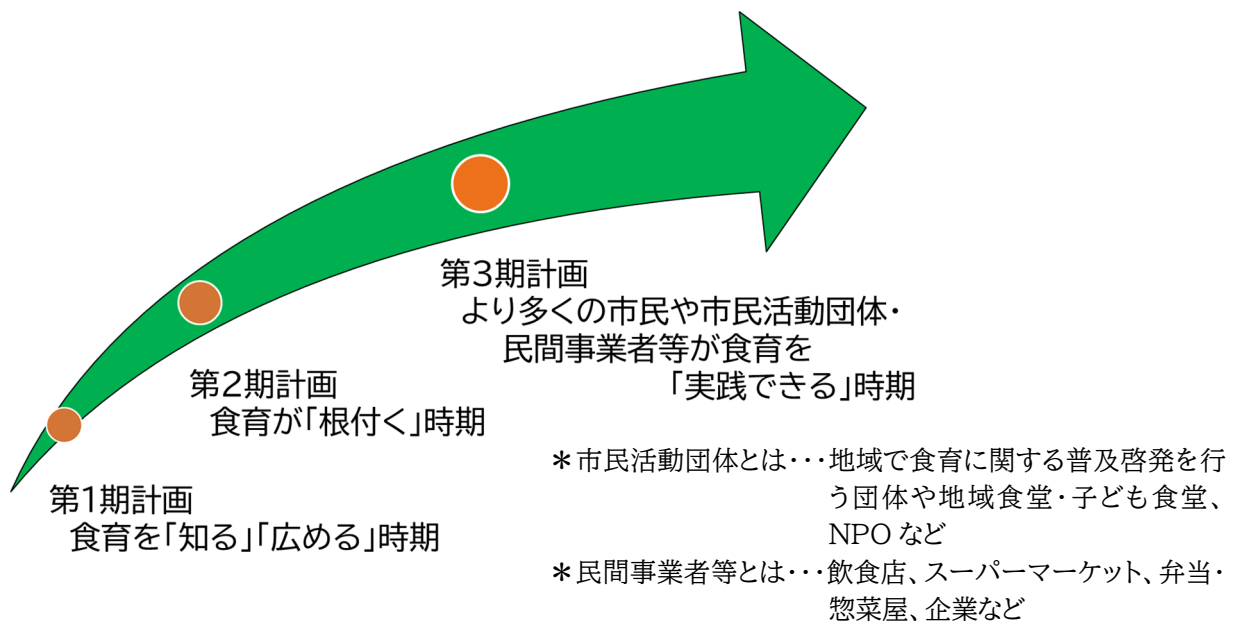
食を大切にする人々を育むまち

私たちが生涯にわたり健康で生き生きとした生活を送るためには、望ましい食生活を送ることが大切です。

八王子の恵まれた環境を活かしながら、農業や伝統的な食文化にふれ、人々のつながりを深め、広げていくことにより、食を大切にする人々を育むまちを将来像とします。

第3期計画の特徴

第1期八王子市食育推進計画では食育を知り、広めること、第2期八王子市食育推進計画では食育が根付くことを到達点とし、計画を推進しました。第3期八王子市食育推進計画では、より多くの市民や民間事業者等、誰もが食育を実践できることを目指します。



2 基本目標

将来像の実現に向けて、3つの視点から基本目標を整理します。

基本目標 1:望ましい食習慣を身につける

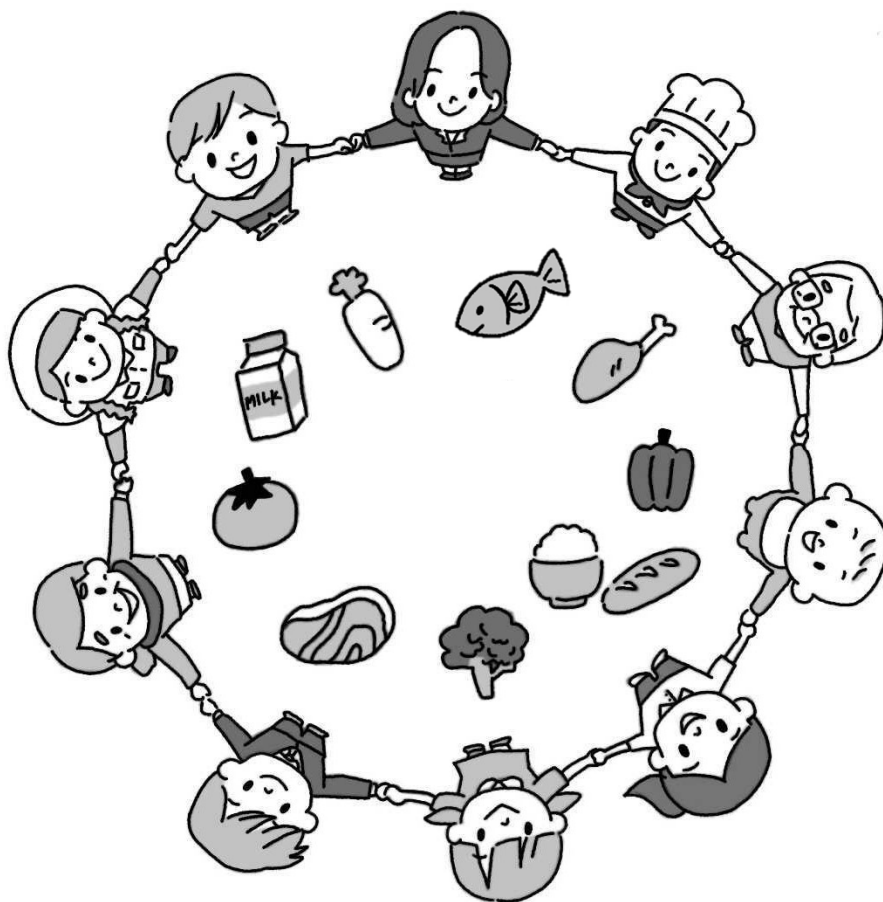
健康寿命の延伸に向け、生活リズムを整え、自身の身体や日々の活動に見合った食事量を把握して、規則正しい食習慣を身につけます。

基本目標 2:食の基本的な知識、スキルを養う

食事のバランスやマナー、食の安心・安全に関する知識を身につけ、外食や中食(惣菜や弁当等を購入して家で食べる食事)を利用するときも適切な食を選択できる力や料理を作る力等のスキルを養います。

基本目標 3:食を通じて、家族、地域、自然とつながる

家庭や地域で食卓を囲む時間を大切に、地産地消の推進や地域の行事食・伝統料理を知ることを通じて、人々との交流や自然への親しみを深めます。環境に配慮した食の循環をすすめる、人と自然の調和した豊かなまちづくりを目指します。



3 施策の柱

「将来像」「基本目標」の実現に向け、食育推進の課題を踏まえながら、以下の3つの「施策の柱」を設定し、行政、市民、市民活動団体、民間事業者等が協働して食育活動を展開していきます。

【論点1】全ての年代の市民へ働きかける

施策の柱1:すべてのライフステージに応じた食育の「更なる土壌づくり」

多様化するライフスタイルによって食育及び健康づくりに関する課題は年代によって異なります。

そのために、全ての市民がそれぞれの年代の特性に応じた正しい食生活習慣を身につけ、生涯を通じて「食」と上手につきあえるような食育の取り組みを推進します。

第2期計画ではライフステージを5区分にしましたが、よりきめ細かに、かつ効果的に食育を推進するために、「幼年期(0歳～4歳)とその保護者及び妊婦、少年期(5歳～14歳)、青年期(15歳～24歳)、壮年期(25歳～44歳)、中年期(45歳～64歳)、高年期(65歳以上)」の6つのライフステージとします。

幼年期、少年期は生活習慣及び食生活の基礎をつくる大切な時期です。引き続き「保育園・幼稚園における食育の推進」、「小学校・中学校における食育の推進」について重点的に取り組みます。

自立の時期にあたる青年期は、活動範囲が広がり、一人暮らしを始めるなどライフスタイルの変化がある時期です。自分で食を選択する機会が増える中で、食育への関心が薄くなる、食生活が乱れるなどの課題が挙がっています。また、本市は学園都市でもあり、多くの学生が生活していることから、重点的な取り組みとして「大学等における食育の推進」を設定します。

壮年期の多くの方は、働きざかりの年代で、結婚や子育てなどライフイベントもあり、生活リズムに変化が生じます。多忙な生活の中でも食を大切にできるよう、「多様なライフスタイルにあわせた支援」を重点に行い、自然に健康になれる仕組みをつくります。

特に、青年期などの若い世代や食育への関心が低い人に向けて、個人に対する支援だけでなく、学校や大学、職場など、その人を取り巻く食に関する環境整備を重点的に取り組みます。

中年期は、自身の健康への関心も高まってくる時期であり、引き続き、生活習慣病の発症予防、重症化予防を重点に取り組みます。

高年期においては、食を通していつまでも生き生きと心身ともに健康で過ごせるよう、「望ましい食生活を実践できるための支援」を重点的な取り組みとします。

【論点2】食の「今」と「未来」を守る

施策の柱2:食を「育てる」「まもる」

食育は、食べることだけではなく、生産から消費までの食の循環への理解を高めることが必要です。食への感謝の気持ちを育て、地域の特徴ある食文化を次世代に伝え、まもっていくためには、農産物の栽培・収穫、調理、食品の購入、生ごみの処理等、食育にかかわる様々な場面での体験が重要です。

特に、本市は人口 50 万人以上の都市の中でごみ排出量が少ない現状があり、これにあわせて食品ロスの削減についても、飲食店と協力して完食応援店事業を実施するなど、力を入れて取り組んでいます。このことから、「食品ロスの削減」を重点的な取り組みとして設定します。

また、国で掲げている「持続可能な食育の推進」において、「食品ロス削減」がキーワードとして挙がっています。

【論点3】市内全域に「食のネットワーク」を構築する

施策の柱3:オール八王子で食育を「つなげる」「むすぶ」

全ての市民が食育に関心を持ち、食育に関する正しい知識・情報を適切に得られるきっかけづくり、基盤の構築が課題となっています。

そのために、様々な食へのアプローチを取り込み、地域全体での食育推進につながるよう、食育にかかわる個人や市民活動団体を支援します。さらに、情報発信、人材育成、食育の拠点づくり、活動のネットワーク強化をはかり、生産者、消費者、行政、民間事業者等、食育にかかわる主体の協働・連携によって個々の取り組みをつなぎ、市民が意識せずに自然に健康になれるような食育を本市全体で推進します。

特に、市内における食育推進活動を広げていくために、担い手となる個人、市民活動団体の育成や支援を重点的に行い、食育を推進する体制を整えます。また、関係者間で密に情報交換・共有を行い、地域全体で食育にかかわる様々な場面を支援していきます